難聴乳幼児を育てる母親の育児ストレスに関する検討

大島美絵¹⁾, 小淵千絵²⁾

¹⁾栃木県立足利特別支援学校

²⁾国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科

要旨：難聴乳幼児のコミュニケーションの基礎の形成や良好な発達のためには、保護者、中でも母親の役割が重要である。本研究では、難聴乳幼児を育てる上での母親の育児ストレスの実態について調査、分析し、必要とされる早期教育支援について検討した。

母親の育児ストレスに関する8項目からなる独自の質問紙を作成し、難聴乳幼児を育てる母親17名に記入してもらい、そのストレス得点、及び年齢、聴力程度、その他の要因から分析した。その結果、精神的苦悩、将来への不安が顕著に高く、社会的孤立、家族和合の欠如が顕著に低かった。またストレス得点と年齢、聴力、KIDS発達指数、相談室での相談期間、兄弟の有無からの比較では、有意な関係はみられなかった。

これらの結果より、難聴乳幼児を育てる母親の育児ストレスは、様々な要因により出現している可能性があり、明確な要因の抽出は困難であると推測された。このため、早期教育支援においては、対象児の個別性に配慮した支援の必要性があると考えられた。

キーワード

難聴乳幼児, 母親のストレス, 早期支援

はじめに

新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、難聴の早期発見、早期診断、早期支援（教育・療育）が可能になった。難聴の発見、診断、療育の早期化は、難聴児の乳幼児期からの言語コミュニケーション発達と認知社会的発達を促進し、これらの不全により生じる二次的障害の発生を予防することが可能になると推測されている¹⁾。早期支援の開始は、コミュニケーションの基礎の形成に関与し良好な発達につながるため、乳児期より、身近な養育者と相互的なやりとり関係の充実にすることが重要である。しかし、難聴児の約90%が聞こえる両親の家庭に生まれるため、難聴の診断は多くの場合、母親や父親に心理的混乱や動揺を引き起こす。また、未知の問題に対する不安は親としての自信を損なうことにも

なるなど、障害の受容までには時間を要するといえる²⁾。このため、早期支援においては、言語発達等の支援だけでなく、保護者の心理的サポートにも重点をおく必要があるといえる。

障害児を抱える家族の育児ストレスに関しては、多くの研究で指摘されている^{3)~5)}。藤本他³⁾は、障害児と共有する時間の多い母親は様々な負担により家族の中でも育児ストレスを大きく抱えていると指摘しており、中村・池田⁴⁾は、障害児の育児において、育てにくさからどのように子どもに接すればよいかかわからず、育児不安に陥り、虐待につながる可能性が高いことを指摘している。難聴児を抱える母親のストレスについては、視覚障害や発達障害を抱える母親のストレスに比べると格段に高いという報告⁶⁾や母親のストレスとその対処には、母子相互の要因が関与しているという報告⁷⁾もみられる。ま

た、難聴の幼児から学童児を抱える両親間のストレスを比較した研究では、育児ストレスや子どもの受容に関して、母親と父親で差はみられないこと、高い対処方略を持つ親ほどストレスが低いことなどが報告されている⁸⁾。しかしながら、このような難聴児を抱える母親のストレスにおいて、具体的な内容や関連要因などについては十分な検討がなされていないといえる。

そこで本研究では、難聴乳幼児を育てる上での母親の育児におけるストレスの実態と、年齢や聴力程度などの要因との関連について分析し、早期支援において必要とされる具体的な内容や方法について検討することを目的とする。

方 法

1. 対象

重複する障害のない難聴乳幼児17名（平均：4歳4ヶ月，SD：20ヶ月，範囲：1歳8ヶ月～6歳7ヶ月）の母親を対象とした。子どもは全例、先天性の両側難聴であり、補聴器を装用する軽度～中等度の難聴児（良聴耳平均聴力レベル（4分法）：67.2 dBHL，SD：19.4，以下，軽中等度群）8名，人工内耳を装用する高度・重度の難聴児（平均：108.7 dBHL，SD：11.4，以下，高・重度群）9名であった。難聴の原因について、特定されている子どもは3名（前庭水管拡大症2名，先天性サイトメガロウイルス感染症1名）であり，その他の児は遺伝子検査などが未実施ないし，原因不明であった。対象児のうち1名以外は，新生児聴覚スクリーニング検査，精密聴力検査を経て補聴，早期支援を開始していた。また，全ての児が医療機関での聴覚管理や療

育を継続しており，医療機関において適切に調整された補聴器ないし人工内耳を装用していた。

全例，両親に難聴はなく，1名は難聴の親族がおり，対象児のうち3名には兄姉（健聴）がいた。また，3歳以上の幼児は，全てが地域の幼稚園，保育園に在籍していた。

対象児の聾学校（聴覚障害特別支援学校）における早期支援開始時期は平均1歳4ヶ月（SD：16ヶ月）であり，本研究協力時の相談期間は平均3年0ヶ月（SD：23ヶ月）であった。

2. 方法

難聴乳幼児を育てる母親のストレスについて把握するために，稲浪他⁹⁾のQRS（Questionnaire on Resources and Stress）簡易版の尺度における8項目（精神的苦悩，悲観主義，過保護・依存，将来への不安，社会的孤立，家族和合の欠如，家族への負担，経済的問題）を参考に，各項目に対応する1問の質問と自由記述による独自の質問紙（難聴乳幼児の育児におけるストレスチェックシート）を作成した。各項目の質問内容については表1に示した。項目ごとの応答方法は答えやすさを考慮し，とてもあてはまる，あてはまる，あまりあてはまらない，あてはまらない，の4段階評定尺度より選択して答えてもらうこととした。また，自由記述欄については，ストレスの内容について具体的な記述を求めた。なお，本質問紙は，難聴乳幼児を育てる母親がどのようなストレスを抱えているかを具体的に分析し，早期教育相談室での対応を検討することを目的としている。

上記の質問紙と同時に，各対象児の発達状況を確認するため，KIDS 乳幼児発達スケール（Kinder In-

表1 難聴乳幼児の育児におけるストレスチェックシート

質問項目
1 子どものことで，悩んだり，疲れたりしてしまうことがある（精神的苦悩）
2 子どもの発達について，順調に発達していると実感できる*（悲観主義）
3 自分の時間の中で，子どもの世話や療育に大幅に時間をとられている（過保護・依存）
4 子どもの将来について不安である（将来への不安）
5 色々と話をしたり，心の支えになってくれたりする人がいる*（社会的孤立）
6 家族とは，何でも話することができる*（家族和合の欠如）
7 子どものきこえのことで，他の家族に負担がかかっていると感じることがある（家族への負担）
8 子どものことで，経済的な負担が大きいと感じることがある（経済的問題）

*は，逆転項目である

fant Development Scale, 以下 KIDS) を実施し, 対象児の全般的な発達評価も行った。

3. 分析

質問紙の4段階評定尺度は, 各項目でストレスが高いと思われる順に, とてもあてはまる(3点), あてはまる(2点), あまりあてはまらない(1点), あてはまらない(0点)で点数化した。悲観主義, 社会的孤立, 家族和合の欠如は逆転項目で点数化し, これらをストレス得点とした。個人ごとに全項目の総得点(0~24点)と各項目の得点(0~3点)を求めた上で, 対象児の平均及び標準偏差を求めた。自由記述欄については, 類似した内容をまとめた。

KIDSは, 対象児ごとの発達指数(DQ)を算出し, さらに言語にかかわると考えられる理解言語, 表出言語, 概念, 対子ども社会性の4つの領域において発達年齢から換算した指数を算出した。

上記得点から, 幼児期前期(3歳未満群, 7名)と幼児期後期(3歳以上群, 10名)に分けた年齢による比較, また軽中等度難聴(8名)と高・重度難聴(9名)とに分けた聴力程度による比較を行い, 難聴乳幼児を育てる母親のストレスの傾向について検討した。有意差の検討についてはクラスカル・ウォリス検定を用い, 有意水準を1%とした。また, 多重比較については, Scheffeの方法を用いた。

また, 母親の育児ストレスや不安の要因をより詳しく探るため, ストレス得点とKIDSの発達指数,

早期教育相談室での相談期間, 対象児の兄姉の有無についてからの分析も行った。二要因間の関係については, スピアマンの順位相関係数を用いて検討した。

結 果

1. ストレス得点の分析

個人の全項目のストレス得点は, 平均10.2点(SD: 4.0, 最高得点17点, 最低得点4点)であった。各項目の平均得点について比較すると(図1), 平均ストレス得点が高いのは, 精神的苦悩と将来への不安の項目であり, 得点が低いのは, 社会的孤立, 家族和合の欠如の項目であった。また, 項目間では統計的に有意な差がみられた($\chi^2=50.9$, $p<0.01$)。多重比較により検討すると, 精神的苦悩と社会的孤立, 精神的苦悩と家族和合の欠如, 将来への不安と社会的孤立, 将来への不安と家族和合の欠如, で統計的に有意差($p<0.01$)がみられた。

年齢による比較では, 3歳未満群で平均10.6点(SD: 4.3), 3歳以上群で平均10.0点(SD: 4.1)と, 総合得点では両群に差はみられなかった。各項目の平均得点においても比較したが(図2), 同様に統計的な有意差はみられなかった。次に, 将来への不安の項目について記述例を挙げた上でまとめたところ(図3), 3歳未満では言語発達や聴力, コミュニケーションなど, 具体的な発達に関する不安が多く, 3歳以上では就学, 就学後の学習や人間関

図1 項目ごとの平均ストレス得点

図2 年齢によるストレス得点の比較

図3 将来の不安の項目に対する自由記述内容の年齢による比較

係などの不安が半数を占めており、不安を抱える項目得点間には差がみられなかったものの、子どもの年齢によって抱える不安の内容は質的に異なっていた。

聴力程度による比較では、軽中等度群で平均9.3点 (SD: 4.7)、高・重度群は平均11.1点 (SD: 3.4) であり、統計的な有意差はみられないが高・重度群がやや高い傾向がみられた。項目ごとに比較すると (図4)、家族への負担や経済的な問題は、高・重度群で高い傾向がみられたが、統計的な有意差はみられなかった。経済的な問題の項目について自由記述欄を分析したところ (図5)、今回対象とした高・重度群では、全例が人工内耳装用児であり、補聴器を装用する軽中等度群よりも補聴機器の維持費用の問題をあげる人が多く、半数を超えていた。

2. ストレス得点と関連する要因との関係

ストレス得点における個人の全項目の合計得点と KIDS 発達指数との関係では (表2)、KIDS 得点が高い場合には、ストレス得点が低い傾向もみられたが、明確な相関はみられなかった ($r = -0.27$, $n.s.$)。また、KIDS の下位項目である理解言語 ($r = -0.24$, $n.s.$)、表出言語 ($r = -0.33$, $n.s.$)、概念 ($r = -0.24$, $n.s.$)、対子ども社会性 ($r = -0.34$, $n.s.$) の4つの領域においても有意な関係はみられなかった。同様に早期教育相談室での相談期間 ($r = 0.07$, $n.s.$)、対象児の兄弟の有無 ($r = 0.10$, $n.s.$) についての間にも有意な関係はみられなかった。

考 察

ストレス得点の分析の結果から、不安の内容としては精神的苦悩、将来への不安が顕著に高い傾向が

図4 聴力程度によるストレス得点の比較

図5 経済的な問題の項目に対する自由記述内容の聴力程度による比較

みられ、難聴乳幼児を育てる母親は、現在の状況や将来のことへの不安を抱えていることが明らかとなった。一方で、社会的孤立、家族和合の欠如の項目については顕著に低く、早期教育相談室や医療機関等での支援や相談、同じ難聴乳幼児を育てる母親との出会いによって、社会的な孤立感を感じることなく、支え合いが構築されてくるものと推測された。早期支援においては、母親同士の交流の場を提供し、母親の心理的サポートの強化を図ることにも力を入れていることから、精神的な安定を得ることができ、母親の育児ストレス軽減につながっていると

考えた。

年齢や聴力程度においてストレス得点を比較すると、3歳以上で就学に向けた不安や就学後の学習・人間関係についての不安を示している母親が多かった。これは、就学が近づいてくることにより不安が大きくなる傾向があると考えられた。長瀬・池谷¹⁰⁾は、難聴発見から教育機関につながるまでの時期、就学時期、社会に出る時期という3つの時期は、子どもの成長過程、学校生活、家庭生活の中でも、保護者にとって様々なストレスを感じる大きな時期であるため、学校としての支援が強く求められる時期であると報告している。今回の結果でも、その点を反映しているものと思われた。

また、人工内耳装用児の母親は、人工内耳の維持費用に経済的な負担を感じていることがわかった。人工内耳は、補聴器に比べて消耗品等にかかる費用負担が大きいことから、人工内耳装用児の家族においては、経済面での不安を抱えやすいことを把握しておく必要があるといえる。先行研究¹¹⁾においては、補聴器装用児と人工内耳装用児を抱える親では、手術の有無などから、人工内耳装用児の親の方が心理的な苦悩が大きいことを指摘している。さらに、難聴児の支援においては、装用する補聴機器の違いによる微妙な差異を考慮する必要性について指摘しており、本研究結果においても同様といえるだろう。

ストレス得点に関連する要因として、KIDS 発達

表2 ストレス得点の合計点と関連要因との関係

要因	KIDS					相談期間	兄弟の有無
	発達指数	理解言語	表出言語	概念	対子ども社会性		
全項目	-0.27	-0.24	-0.33	-0.24	-0.34	0.07	0.10
ストレス得点	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>	<i>n.s.</i>

上段：相関値 *n.s.* 非有意

指数、早期教育相談室での相談期間、対象児の兄弟の有無について、その関係を検討したが、いずれも有意な関係がみられなかった。このような結果は、難聴乳幼児を取りまく状況が様々であったり、母親の不安の原因が多様であったりするため、母親個々の発達の捉え方や子どもへの期待度などが影響し、変わってくるものと考えられた。例えば、KIDSでの全般的な発達、理解言語及び表出言語が生活年齢に比して低い場合にも、我が子ができるようになったところに目を向け、大らかに見守り共に発達を喜ぶという例もあれば、子どもはある程度の発達を遂げ、その実感があっても、自分の考える到達点に達していない、他児と比べて十分でないと感じている例もみられた。本研究においては、母親の性格による分析は行っていないが、このような母親の性格特性や子どもの捉え方により、母親のストレスの感じ方は変わってくるものといえる。Hintermair¹²⁾も、ストレス軽減には母親のストレス対処能力が重要であると報告しており、早期支援においては、難聴乳幼児自身の発達状況だけでなく、家庭環境、母親の性格など、様々な視点での情報収集を図った上で、状況に応じて保護者支援を行っていく必要があると考えられた。

今後の課題

本研究では、難聴乳幼児を育てる母親に対し、早期教育相談の中での支援内容や方法を検討するための資料を得るべく、母親の育児ストレスを捉えるための質問紙を作成し、実施した結果についてまとめた。今後このような質問紙を活用する上では、質問項目の妥当性や信頼性について十分に検証し、健聴児や他の障害のある乳幼児の母親との比較や家庭環境、母親の性格など様々な視点からの検討が必要で

あると考える。特に近年では、育児に対し夫婦で分担して行う家庭もみられることから、調査対象を広げたり、質問内容の検証や対象児を増やして検討を重ねていくことで更に有用な知見が得られ、支援の充実につながるものと思われる。

難聴乳幼児を育てる母親の不安は、子どもの年齢や聴力程度、言語発達の状況等だけでなく、家庭環境や母親の性格など他の様々な要因、個々の状況から出現している可能性が推測される。乳幼児期は、心身の発達の基盤となる重要な時期であると同時に、母親が様々な不安を抱える時期でもあり、早期支援は重要である。母親を主体とした保護者支援においては、指導的な関係や一斉に同じ内容を伝達するだけでは、母親の本来の思いをつかみ、理解し、個々のニーズに応じた支援は難しくなってしまう。子どもの発達の状態だけでなく、母親の状態に合わせて、今あるいは今後必要な情報を適切に提供していく、また母親や家族の思いを受け止め、一緒に子どもの発達を支えていけるようにしていく必要がある。

結 論

本研究では、難聴乳幼児を育てる上での母親の育児におけるストレスの実態と、年齢や聴力程度などの要因との関連について分析し、以下の結果を得た。

- 1) ストレスの内容については、精神的苦悩、将来への不安が高い傾向がみられ、社会的孤立、家族和合の欠如の項目については低かった。
- 2) 3歳以上の難聴乳幼児を抱える母親では就学に向けた不安や就学後の学習・人間関係についての不安を示している例が多く、人工内耳装用児を抱える例では、人工内耳の維持費用に経済的な負担を感じ

ていた。

3) 子どもの発達指数, 早期教育相談室での相談期間, 対象児の兄弟の有無については, ストレス得点と有意な関連がみられなかった。

4) 早期支援においては, 難聴乳幼児自身の発達状況だけでなく, 様々な視点での情報収集を図った上で, 状況に応じて保護者支援を行っていく必要があると考えられた。

A study of the stress incurred by mothers taking care of hard-of-hearing infants

Mie Oshima¹⁾, Chie Obuchi²⁾

¹⁾Tochigi Prefectural Ashikaga Special Needs School

²⁾International University of Health and Welfare, Department of Speech/Language and Hearing Sciences

Most mothers caring for infants with disabilities tend to have anxiety about their children's future and stress from child-rearing. In this study, we investigated the degree of the mothers' stress using a questionnaire, as well as the relationship between the stress and potentially related factors.

We administered a questionnaire to 17 mothers caring for their hard-of-hearing infants (age 1–6 yrs.). The questionnaire prepared by us included 8 scales, including Parental Affliction, Anxiety about the Future of the Child, Social Isolation, Lack of Family Integration, Financial Problems, etc.

Our results showed that the scores for Parental Affliction and Anxiety about the Future of the Child were high, and those for Social Isolation and Lack of Family Integration were low. There were no significant correlations between the mother's stress and their children's age, degree of hearing, development, support periods, or presence of siblings.

We concluded that a variety of factors contribute to the mothers' stress. Therefore, appropriate support needs to be provided to parents caring for

hard-of-hearing infants, including not only specific support in response to the children's development and environment, but also mental support, by listening carefully to the mothers' worries.

参考文献

- 1) 廣田栄子: 乳幼児難聴の聴覚医学的問題「早期診断と早期療育における問題点」. *Audiology Japan* **56**: 199–211, 2013
- 2) 中村君枝: 聴覚障害乳児の早期療育. *音声言語医学* **45**: 217–223, 2004
- 3) 藤本修平, 中嶋静香, 大高洋平: 障害児を持つ母親の育児ストレスに影響する因子の検討. *ストレス科学研究* **27**: 17–22, 2012
- 4) 中村彩香, 池田由紀江: 発達障害児を持つ母親への支援に関する一考察. *健康科学大学紀要* **5**: 115–122, 2009
- 5) 岩崎久志, 海老寺陽子: 軽度発達障害児をもつ母親への支援. *流通科学大学論集—人間・社会・自然編—* **22**: 43–53, 2009
- 6) 中塚善次郎, 清重友輝: 障害種別によるコミュニケーションの難易性と母が受けるストレスとの関連. *美作大学・美作大学短期大学部紀要* **54**: 29–37, 2009
- 7) Calderon R, Greenberg MT: Stress and coping in hearing mothers of children with hearing loss: factors affecting mother and child adjustment. *American Annals of the Deaf* **144**: 7–8, 1999
- 8) Anat Zaidman-Zait, Tova Most, Ricardo Tarasch, et al: The Impact of Childhood Hearing Loss on the Family: Mothers' and Fathers' Stress and Coping Resources. *Journal of Deaf Studies and Deaf Education* **21**: 23–33, 2016
- 9) 稲浪正充, 小倉たみ子, Catherine Rodgers, 他: 障害児を育てる親のストレスについて. *特殊教育学研究* **32**: 11–21, 1994
- 10) 長瀬さゆり, 池谷尚剛: 聴覚障害児をもつ保護者支援の在り方—全国聾学校調査からみた保護者支援—. *岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究* **7**: 256–273, 2005
- 11) Claudia Spahn, Bernhard Richter, Thorsten Burger, et al: A comparison between parents of

children with cochlear implants and parents of children with hearing aids regarding parental distress and treatment expectations. *International Journal Pediatric Otorhinolaryngology* **67**: 947–955, 2003

- 12) Manfred Hintermair: Sense of coherence: a relevant resource in the coping process of mothers of deaf and hard-of-hearing children?. *Journal of Deaf Studies and Deaf Education* **9**: 15–26, 2004

(2017年12月26日受稿 2018年4月3日受理)

別冊請求先: 〒326-0011

栃木県足利市大沼田町619-1

栃木県立足利特別支援学校

大島美絵

Mie Oshima

Tochigi Prefectural Ashikaga Special
Needs School

619-1 Onumata, Ashikaga, Tochigi,
326-0011, Japan